

新刊紹介

『障がい福祉の学ぶ働く暮らすを変えた5人のビジネス』 砂長美ん監修(ラグーナ出版)

障がいのある人が入
院すると、「健常者と
一緒の部屋では困るの
で個室に入ってほし

い」と言われてしま
う。さらに、「付添人
がないと困る」と言
われれば、差額ベッド



代の他に付き添い費も
…。「全国的障害者
共済会」は、こうした
医療費の助成以外で必
要になる実費額が大き
な負担となって障がい
者とその家族にのしか
かっている現状などを
背景に、2000年に
設立。全国組織の共済
制度として支持を廣
げ、保険業法の改正を
機に少額短期保険会社

「ぜんち共済」に移行
した。榎本重秋社長は
「単に保険金を支払う
だけでなく、障がい特
性を理解して支援にあ
たる会社でありたい」
と、共生社会の夢を語
る。

本書は、ぜんち共済
をはじめ、福祉とビジ
ネスというかつては結
びつきようもなかった
「異分野」を融合した
五つのサクセスストー
リーを紹介する。
「カレッジ」と呼ば
れる「疑似大学」を設
立し、知的障がい者に
高等教育を提供する社
会福祉法人。卒業生の
多くは、戦力として一
般就労を果たしている
という。社内の半数が
障がい者というデザイ
ン・印刷会社では、個
々の体調に合わせて、
「遅刻OK、休みO

K」の離職を防ぐ勤務
体系を取る。「障がい
は治すものなの？」と
の疑問を出発点に、皆
が無理せず健康に働け
る会社を目指す。
大企業が障がい者雇
用の受け皿として設け
る「特例子会社」に向
けて、胡蝶蘭の栽培指
導と販路開拓を行うN
PO法人は年商1億円
を見込む。理事長は、
知的障がいの息子が
「生まれてきたことの
意味をもたせるため
に」活動していると話

す一方、売ることに興
味のない福祉作業所は
「職員の達成感しか残
らない」と断じ、「出
来たものをいかに高く
売るかというビジネス
の視点」に徹する。
また、障がい者施設
で作った商品の企画開
発に携わる女性は、自
身も学習障がいの当事
者。議員会館内のコン
ビニに置いてもらった
商品の名称を「みんな
の笑顔クッキー」から
「国会記念クッキー」
に変えた途端、飛ぶよ
うに売れたという経験
から、同情ではなく、
「買う人が楽しいもの
を作ろう」と「卒お情
け」を提唱する。
それぞれに共通する
のは、「人を幸せにする
ための企業・ビジネス」
の姿を思い描いた
上で、それを行動力で
軌道に乗せ、今なお前
進させていることだ。
「企業が堂々と大き
な声で『愛』を語る時
代に入っている」(本
書「おわりに」より)
。助成に依存しな
くても、福祉がビジネ
スとして当たり前に成
り立つ社会のかたちが
見えてきた。

企業が堂々と「愛」語る時代に

(四六判144頁、
定価1852円+税)